

第6回子ども国会

☆ 宣言書 ☆



みんなが、「豊か」に
生きていける未来の実現

平成21年8月24日

子ども議員一同

《はじめに》

私達は、「みんなが‘豊か’に生きていける未来の実現」のため、第6回子ども国会を開催しました。全国から集まった子ども達は、二日間、貧困問題、環境問題、メディアリテラシーの分科会に分かれて話し合いました。

分科会は以下の通りです。

[貧困問題]

- ・世界中の子どもたちに教育を

[環境問題]

- ・ECO!

[メディアリテラシー]

- ・情報の光と影

私達は、これらのテーマの現状や理想について子どもの視点から話し合い、改善案を考えました。改善案はより明確化する為、「自分たちのアクションプラン」と「大人への提言」に分けて掲載しました。

《第6回子ども国会の目的》

世界では、紛争や貧困により苦しむ人々がたくさんいます。また、日本にも教育問題や環境問題、社会制度など、たくさんの課題があります。このような問題は、国会議員や官僚といった公務員を中心に大人によって議論されることが多いのが現実です。しかし、これらの問題に関係しているのは大人だけでしょうか？この世の中で生活している全ての人々に関する問題であり、将来を担う私達子どもにとっても、大切な問題です。現在そして未来に対して真剣に考え意見を共有することによって、子どもも大人もともに成長し、みんなが‘豊か’に生きていける未来が実現すると考えます。そのためには、以下が重要だと思い、第6回子ども国会の目的と致しました。

1. とともに未来を気付く他者と出会い、対話することの重要性、意義を実感してもらうこと。
2. 国際社会及び日本国内における課題に関心を持ち、話しあう場を提供すること。
3. 中高生の声を社会に届けること。

貧困問題

世界中の子ども達に教育を

参加者： 工藤広貴, 国吉真織, 安村プリシーラ, 近藤レオナ, 橋本晋太郎,
水野聡子, 海野沙弥佳, 松田有穂

1, 現実

貧困問題の背景には、貿易、経済、医療、衛生、食料、教育、軍事、平和、風習、児童労働、など様々な問題が関与している。これらの中でも、私達は児童労働に関する問題の解決貧困をなくす一つの策だと考え、今回の議論の中心とした。女の子の家事労働や、男の子の農業、漁業での危険な労働が「働くために学校に行けない」ということを端的に表している。

これらの理由と同時に、大きなスケールで、企業が児童労働を必要としているなどの理由から、生活の基盤が作れず、収入不足の結果、悪循環が根付いている。

2, 理想

児童労働の悪循環を断ち切ることを目指す。そのために、働きながら学校に行ける場を設け、そして完全なる児童労働の撤廃を実現すること望ましいと考える。

3, 改善策

・自分達に出来ること

- ー日本にいながら出来ることとして、NGO/NPO, ボランティア,
あるいは個人で途上国への支援(物やお金の寄付など)をする。
- ーフェアトレード商品を買う。
- ー不当な条件で引き取られたと分かる商品に対する不買運動。
- ー実際に途上国に行き、直に物やお金の寄付,
あるいは自分の専門分野を活かした支援活動を行う。
- ー貧困を日本にいながらも色々な媒体から学び、互いに啓発する。
日本の国際的な立場を知ることも重要である。

・大人にして欲しいこと

働きながら学校に行ける場を設けるためには、義務教育体制の設備、通学の奨励、教育の投資（人材・資金）の拡充が必要である。その資金を調達するため、途上国には、軍事費削減、税金の無駄使いの削減、産業の育成を要求する。先進国には、貧困ビジネスの促進、人材派遣/育成、軍事調達目的の貿易規制、最低限の利益を保証した貿易（フェアトレード貿易）の促進を要求する。

また、フェアトレード貿易で生じた利益の一部を生産者にとって、意義がある物に使用し、その用途を知り、監督する義務と権利を購入者が持つことを、私達は望む。

【子ども議員の提案】～外務省の皆さんへ～

政策提言

貧困問題の背景には、これらに加え、先進国、発展途上国双方の企業が児童労働を必要としているなどの理由から、貧困層は生活の基盤が作れず、悪循環が続いている。

発展途上国には… 税金の無駄使いの削減、軍事費削減

産業の育成

貧困ビジネスの抑制

先進国には… 人材派遣/育成

軍事調達目的の貿易規制

最低限の利益を保証した貿易（フェアトレード）の促進

※また、フェアトレード貿易で生じた利益の一部を、生産者にとって意義のあるものに使用し、その用途を知り、監督する義務と権利を、購入者が持つことを、私達は望みます。

実施期間

ILO（国際労働機関）が掲げるように、“2015年までに児童労働の漸進的撤廃と、普遍的な初等教育を重視して、「万人のための教育」達成を目指す。”

期待される効果

働きながら、学校に行ける場を設け、悪循環を断ち切る。

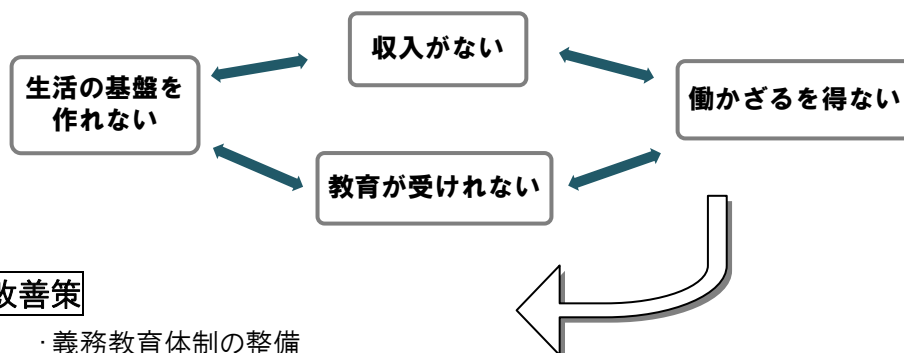
—学校がある、先生もいる、授業料も安く、通学可能な義務教育体制の整備

—給食、奨学金、通学家庭に補助金を与えることによる通学の奨励

—教育への投資（人材資金）の拡充

【アクションプラン】～私達は行動します！～

テーマ 児童労働における悪循環を断ち切る



改善策

- ・義務教育体制の整備
- ・通学の奨励
- ・教育への投資(人材資金)を拡充



資金調達の策

- ・軍事費削減
- ・税金の無駄使い削減
- ・貧困ビジネス促進
- ・人材派遣/育成

4, 子ども議員の声

- 熱いディベート, 非常に楽しみました. 普段の学校生活では得られない刺激を受け, 学ぶことが多かったです. 1泊2日という短い期間でしたが, いい思い出です. (橋本)
- 貧困とか飢餓とか, 日本で生きていれば, 僕は生涯考えなくても生けられると思いますが, そういうことを考えるのが大切だと思いました. (工藤)
- 最初は子ども国会に来るのが初めてだったので, 緊張したけど, 貧困ファミリーの絵をみんなで書いたり, いっぱいしゃべって, 楽しかったです. 本番の発表では, 最後まで, みんなに伝わるように頑張って話して, お土産話をいっぱい持ち帰りたいです. (近藤)
- 今まで「興味を持って, 自分なりに調べてきてはいたけれど, 色んな人と討論し, 話を聞く上で, 知らなかったことや新たな発想など得られて, とても有意義な2日間でした. 「貧困」とは簡単な問題じゃないということ, 再認識しました. (国吉)

環境 最強のエコ生活！

参加者： 秋定宇夢，樋口ノイエ，松下遼，近藤メリナ，金子美穂，岩崎悠介，筑後孝雄
藤代麻衣，箱崎勇人，小串紀和子

1, 現実

京都議定書の問題点は以下の3点である。

- ・二酸化炭素排出量が最も多い米国が批准していない
- ・途上国であるが二酸化炭素排出量の大部分を占める中国・インドが，発展を妨げるという理由から，締約していない

→つまりCO2排出量の多い国が京都議定書に関わっていない

- ・日本を含め排出削減目標を達成できる国は少ない

→義務ではないため拘束力が弱い。実現力が弱い

2, 理想

- ① 地球温暖化は地球規模の問題であり，少数の国だけの努力で解決することはできない。世界の国々が一致団結してこの問題に取り組むことが大切である。
- ② 一人ひとりが現状を知って行動を起こすことが大切である。

3, 改善策

- ・自分たちにできること

京都議定書の目標が達成されていないことを踏まえて，国レベルだけでなく，私タイム個人レベルでも環境問題に取り組まなければならない。

一人ひとりが現状を知り，意識して個人の生活を見直すことが必要である。

- ・大人にしてほしいこと

個人がエコ生活に取り組んでも損をしない，エコ生活を推進するような社会に変えていくこと。

【アクションプラン】～私達は行動します！～

テーマ 最強のエコ生活！

改善策

「人に提言するだけじゃダメだ！ 私たちが見本となって、エコ活動を先導していくんだ！」
という強い意志から、私たちは以下の行動を行います。この最強のエコ生活に向けてひたすら努力することが、いつかは環境問題解決につながってゆくと思います！！

〈外出前〉

- ・洗顔，歯磨き時，水は必ず止める
- ・お皿の使用はできる限り少なく
- ・必要な材料を確認してから冷蔵庫を開ける
- ・家族みんなで食事
- ・使わないコンセントは抜いておく

〈外出する〉

- ・エコバック，折り畳み傘，手作りお弁当，水筒，My箸，ハンカチを用意
- ・徒歩，自転車，公共の乗り物を使用
- ・レジ袋，不要なチラシなどはもらわない
- ・お弁当は公園のベンチで

〈帰宅後〉

- ・使う部屋のみ電気をつける
- ・米のとぎ汁は植物へ
- ・食事はマイコップ
- ・食事中に使用したティッシュで皿の汚れをふき取る
- ・お風呂はなるべく短時間で全員が入るようにする
- ・テレビは時間制限にする
- ・就寝時はコンセントを抜き，エアコンは使わない
- ・扇風機はタイマーをかける

【子ども議員の提案】 ～外務省の皆さんへ～

政策提言

・全国共通、エコバックポイントカード。

全国のスーパーマーケットやコンビニで使え、買い物時にエコバックを使用するたびに、1ポイントずつ加算されていく。15ポイントたまったらポイント対象店で使える500円分の商品券、または店舗ごとのプレゼントがもらえる。

実施期間

2010年1月1日～

(特に期間は定めず、続けていくことで、エコバックの義務化などの新しい政策を序々に考案していく)

期待される効果

・eco への関心、大切さの実感への第一歩となる

・これまでにない還元率、店舗ごとのプレゼントなどを実施することで、eco することが楽しみにもなり、自発的な eco 活動が期待できる。

4, 子ども議員の声

- 昨年に引き続き、今年も参加させていただきました。相変わらず活発な意見が飛び交っていて、楽しく討論に参加することができました。ありがとうございました。(樋口)
- 今年初めてでしたが、大学生とともに討論できて楽しかったです。討論の内容がレベルが高くて、勉強になりました。できれば来年も参加したいと思います。ありがとうございました。(松下)
- 一つのことについていろいろな年代の方と長時間討論したことは初めてで始めは少しいけるか心配でしたが、とても充実した一日でした。もっとこのような機会が増えるとよいなあと思いました。(近藤)
- 今年初めてだったけど、とても楽しかったです。(秋定)

メディアリテラシー 情報の光と影

参加者： 加藤恵亮, 植田菜子, 柴宮史佳, 豊田勇知, 小野田衣里, 松井奏

1. 現実

- ・サイト管理者の管理が行き届いていない
- ・裏サイト利用者がページにアクセスしてしまう。
- ・情報に関する道徳が充実していない
- ・匿名性が高いために発言に責任を持たない。

2. 理想

- ・サイト管理者の管理がきちんとしている。
- ・管理人を免許制にする
- ・裏サイト利用者が、ページにアクセスしない
- ・道徳面の充実

3. 改善案

・自分たちにできること

一般常識を共有する・利用者は裏サイト「見ない」「使わない」「書き込まない」「気にしない」

・大人たちにしてほしいこと.

サイト管理者の免許制～免許講習時に、人権・名誉棄損・個人情報についての法律を学ぶ。

サイトに書き込む人、書かれる人の気持ちがわかるように研修を行う(特に悲しみ, 怒り, 痛みがわかるようにする).

サイト管理者は定期的にプロフなどに注意を払う。

【子ども議員の提案】～文部科学省のみなさまへ～

政策提言 ・メディアリテラシーを浸透させる教育を都内小・中学校で実施する。

- ① メディアリテラシー”に換わる言葉として“情報選択力”を利用する。
- ② メディアリテラシーに関するポスターを小中学生に作成してもらう。
- ③ 同じ問題に対する新聞記事(意見)を新聞社ごとに作成してもらう。
→新聞・ニュースを比較する。疑問を持ったら、すぐに自分で調べる姿勢を持つ

実施時期

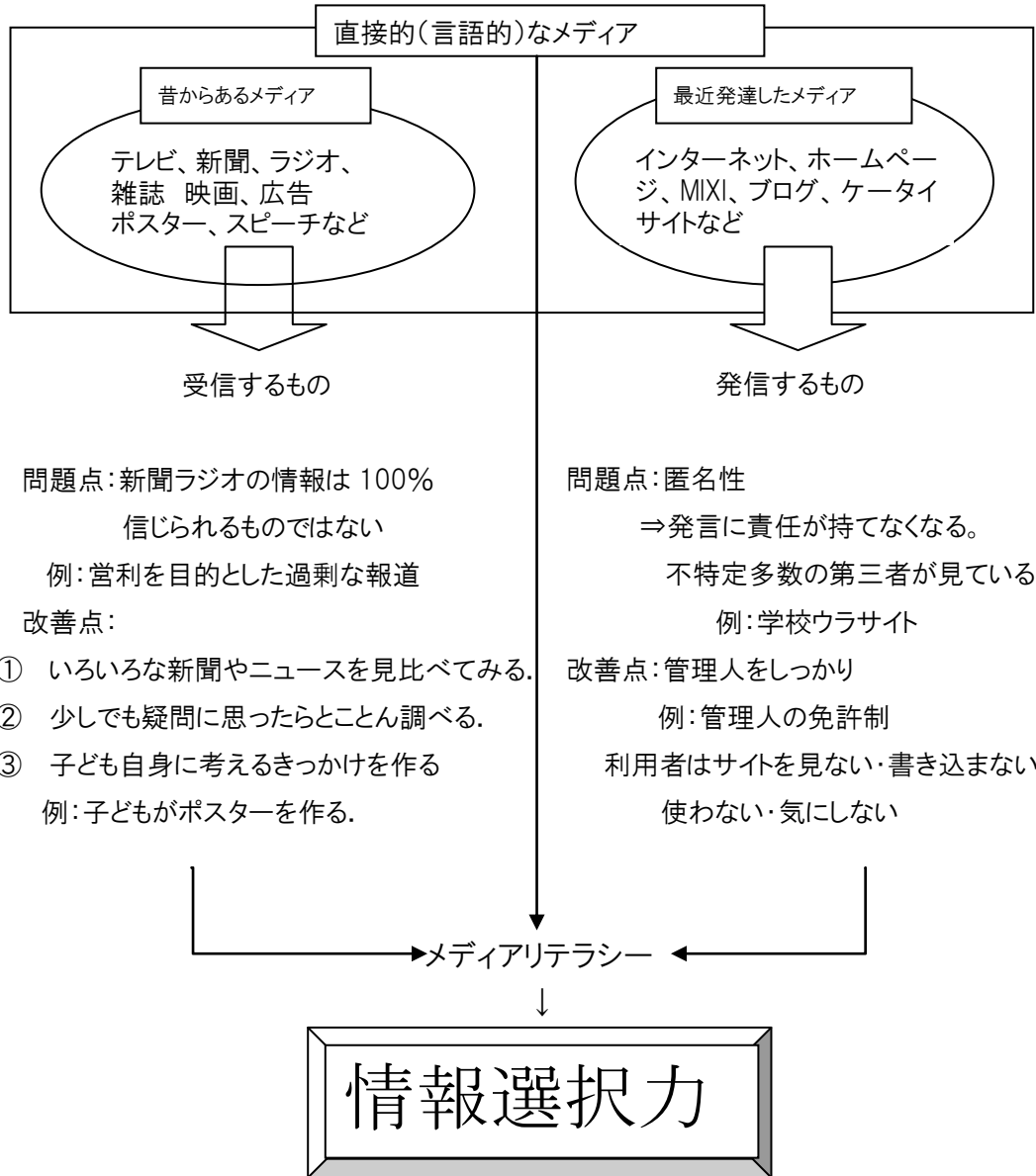
今日から地球が減びるまで。

期待される効果

- ①' 難しくても意味がわかりにくい“メディアリテラシー”という単語を、簡単な“情報選択力”という言葉に置き換えることで、一回学んだだけで意味を忘れにくくなる。
- ②' メディアリテラシーの意味, 重要性を主体的に理解する。
- ③' 多様な意見があること, メディアの意見が正しいとは限らないことを理解する。
情報におどらされなくなる → 本当の社会を知ることができる。
→ しっかりとした考え方を持つことができる。 → 自己実現できる社会

【アクションプラン】 ～私達は行動します！～
～情報選択力～

メディア＝情報を伝える道具(メッセージ性があればメディア)



情報をうのみにしないで、自分で考えて選び取る力を育むことが大事

4. 子ども議員の声

- 僕は、子ども国会に参加して二回目になります。今回参加したメディアリテラシーでは、情報の光と影について同年代の人たちと話し合いました。そこで気付いたことが、僕たちがふつつみている情報には、自分にとっていい情報や悪い情報もあるということを初めて知り、情報社会と言われている今、私たちが自分自身に必要な情報を見極められる力(情報選択力)を鍛えることが大切だと感じました。最後に分科会のみなさん、2日間ありがとうございました。
- 今回、子ども国会に参加して、私は初めてメディアリテラシーという言葉を知りました。私はメディア＝TVというイメージを持っていましたが、メディアにもたくさんの意味があって、メッセージ性があるものすべてメディアということ、情報の選択の力をつける事の重要性など、たくさんのことを学びました。これをみんなに広めて、よりよい情報社会にできたらいいなあと思います。実行委員会のみなさん、ファシリテーターのみなさん、分科会のみなさん本当にありがとうございました。最高の思い出になりました！

《おわりに》

以上が、子ども議員による将来への希望の声です。現実の問題を理解し、自分たちに何ができるのか真剣に話し合い出した結果を、力を合わせて活動していきます。この宣言書を読んでもくださったあなたが私達の意見に賛同し、活動していただけることを願います。

私達は、大人たちとも協力し活動していくことを誓います。この宣言書を手にとってくださった大人みなさんに私達の思いが通じ、一緒に様々な問題に取り組んでくださることを願っています。

子どもから大人まで全ての人々がともに協力し、世界の貧困問題やから身近な教育問題、環境問題まで多くの課題を解決する社会をつくるため、自分にできることから積極的に活動していきましょう。

子どもの意見が社会に反映されることを願って。

平成 21 年 8 月 24 日 第 6 回子ども議員一同